

'71

会報



THE ROTARY CLUB
OF TSURUOKA

鶴岡ロータリー

第 598 号

1971.4.13 (火)

例会場 鶴岡市本町二丁目 ひさごや

事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内 ☎ 5775

会報はご家族みんなで読みましょう

「隔りを取り除こう」

出席報告

本日の出席	会 員 数	59名
	出 席 数	40名
	出 席 率	67.80%
欠 席 者	阿宗君、荒明君、長谷川(文)君、池内君、石井君、五十嵐(伊)君、五十嵐(一)君、金井君、黒谷君、金野君、嶺岸君、三浦君、岩網君、齋藤(栄)君、齋藤(信)君、佐藤(伊)君、笹原君、富樫君、篤田君	
前回の出席	前回出席率	81.36%
	修正出席数	50名
	確定出席率	84.75%

マークアップ 今間君、佐藤(昇)君
一鶴岡西RC

ビジター 帯谷義雄君一鶴岡西RC

会長報告

予て、ご報告いたしました文化会館前の掲示板が完成したので、私と佐藤昇さんと現幹事出張のため次期高橋幹事とみてきました。

値段のことは弱いのですが、25万円かかっているので掲示板としては立派なような感じのスチール製のものでした。クラブの名前を入れるかどうかについて相談を受けたが、種々考慮の結果、マークだけを隅の方に入れることを要望してきました。金属で出来ているカーバッヂのようなもので、スクリーンのとこ

四つのテスト

——言行はこれに照してから——

1. 真実か、どうか
is it the truth?
2. みんなに公平か
is it fair to all concerned?
3. 好意と友情を深めるか
will it build goodwill and better friendships?
4. みんなのためになるかどうか
will it be beneficial to all concerned?

ろに付けてもらう約束をしてきました。機会を選んでご覧がいます。

ロータリーと政治活動について

早坂源四郎君

ロータリーの友の4月号の中に記載してある談話室に、こういう記事が載っております。秩父の片山さんという方のかかれたことで、途中から読みますと、(会話体になっておりますが)

「たしかにクラブ全体がマンネリ化して新鮮さがなくなった。うちのクラブは会員数が君のところの何倍もあるが、独創性もなく、会員も追従型が多くなる。いわゆるおつき合いで昼食を食べるだけの会員が多くて困るよ。委員会活動も、事業報告書作成のための奉仕活動かと思われるものが多い」

これに対しA会員が、「実際に地域社会改善のために、ロータリーが実施している具体的事項は、あまりに貧弱過ぎます。奉仕活動の殆んどが寄付表彰、それに類似した行事に限られているのが大半ではないでしょうか。市長、市議会、教育委員会その他の団体に対して、ロータリーに耳を傾けさせるように仕向ける。そしてそれを政治に反影させ、地域社会の発展につなげるその原動力となるのがロータリーの奉仕だと思えます」

この会員はおそらく若い会員だと思います。これに対してBは、「仲たいい点をつけているね。形式化からきたマンネリズム老化現象

など、これを打破しなければ、若い会員を迎えても皆失望する。そして世間もみなそっぽをむいてしまうのだ。暇と、お金のある結構な社交クラブだなどと、蓋口される訳だよ」という一節ですが、その中で私が若干疑問に思いましたのは、市長市議会、教育委員会その他の団体に対して、ロータリーが働きかけるといふ、所謂政治的行動をするという点であります。

これをロータリーが、どう解釈しているかは、十分に識っておられる会員も多数おられると思うが、その点に関し未だお気付のない会員もおられると思いますので、情報委員会を出し抜いてまことに恐縮であります。定款を一つ読ませていただきます。

定款の第9条に、公共問題というのがあります。その第1節に「都市の一般福祉について本クラブ会員は利害関係を有する。そしてかかる福祉に関する公共問題の真価については、会員の個人的意見を纏める上に会員を啓蒙するため、クラブ集会において、公正且つ聰明にこれを研究討議することができる。但し、本クラブは論争中の如何なる公共議案に対しても意見を發表しないこと」また第2節に「本クラブは、公職に対する候補者を確認したり、推選してはならない。又、如何なるクラブ集会においても、かかる候補者の功罪を論じてはならない」この2点であります。

私は今の若い会員のロータリー活動を、もう少し地域社会福祉向上のために活動すべきであると思います。それと、この定款との関係を如何に判断すべきかという点を私なりに考えたのでありますが、ロータリークラブがどうして、こういう風な政治活動を禁止したかという点と、ロータリークラブ自体に対して政治的のことに關しては口を出すなどということであって、個々の政治的活動を禁じていることではない。むしろこれを地域社会に反映して地域あるいは国家の福祉のために個人が政治活動することをむしろ奨励していると解すべきでないかと思うのであります。

そういう意味で、会員の中から例えば市議会に出るとし、そしてロータリーの考え方を市議会に反映させるということは、ロータリーとしては最も好ましいことでないかと思えます。ただし、クラブがそういう政治的活動をしてはいかぬという点は、ロータリークラブはやはり自由（宗教的自由、人種的なへだてがないなど）それと政治的にはフリーであるという立場をとっているのです。クラブが一つの政治的見解を示すことは、会員の自由な政治的見解を拘束するではないかと考えられそれがいけないという点に帰すのではないかと思います。

更に公職の候補者を推選したり、その功罪を論じたりすることをクラブの集会においてやってはいけないのです。例えば、今度の市長候補者は、どうも変な恰好しているなどということは、こういう席上で決して口にすべき問題ではないので、こういう点は充分に慎まなければなりません。それはロータリーは基本において友愛、即ちフレンドシップを基としているので、クラブの内部でも選挙に種々候補者が出るとしても、特定の候補者をクラブの集会において推選したり、或はあの候補者は駄目だなどと発言すべきでないというように禁じておるのではないかと思います。

以上、ロータリーの友のこういう風なことについて、2つの考え方を私なりに調和したのですが、若しご異論がありましたらご発表を願います。

早坂発言に対する意見発表と

面白いと思った本の紹介について 会長

今日配られた青年会議所会報4月No.3号に記載している横山さんの記事ですが、青年会議所は政治に介入しない。一派に傾いた行動は取らない。これが基本精神だということが書いてあります。しかし、地域の開発を考えるためには、政治の力をより大きく活用しなければならぬということと、だから政治と切り離して考えられないということが記してあります。やはり行動しなければいけないということなので、唯この例会場の会である特定の候補者の推選ということだけでなく飽までも自主的なものと思えます。それでそのような解釈をしていただければいいでないかと思いますが如何でしょうか。

上記とは直接関係がないが、本の紹介みたいなことをやってみたいと思います。

ご存じの通り、「日本人とユダヤ人」という本が関心をもって読まれております。著者は自らユダヤ人でイザヤベンダサンということで記しております。実際この名前の人が実在するかどうかは不明です。この本の帯に書いてある文章を読みますと、「全員一致の決議は無効だ」とユダヤ人ではそのように考えているといっています。日本人の場合は、全員一致の決議こそ最も有効だと考えています。

ユダヤでは、全員一致で議決することとは、その時の昂奮状態で全員が一致したのか、或はある特定の非常な圧力があって、全員一致にされてしまうかということの危険が大分あるのだということで、ユダヤ人では無効だといひ、日本人の考え方と全くちがうということが書かれております。

この著者を紹介しようと思っても、著者はわかりません。どこに所在するかもわからないのです。

この本の書評で面白いのがあったので読み上げて紹介に替えさせていただきます。

最初に、日本人は何と幸福な民族であったことだろうということではじまります。日本人はたしかに、内乱があり飢饉があり、天災もあったが、しかしバビロニアの入寇以来国家をなさず、全世界に流離散在し、様々な迫害を受け続けてきたユダヤ人からみれば、日本人は常に安全で自由であったと言っております。そこで、安全と自由ということで、日本人は、水か空気みたいな唯で手に入れるのが当然だと思っているが、ユダヤ人にとって安全を守ると言うことは、自分の全財産をかけても守らなければならないものだといっています。

日本人が農工民族であるが、ユダヤ人は放牧の民であり放牧民族というものは土台なまけものなので、日本人的な勤勉さは、全く不用なで無意味に感じています。羊の鼻をいくら熱心になでても羊が繁殖する訳ではないので、ただ忠実な管理者として羊を看守していればそれで充分なのです。ただ農工民族の日本人は、丹精を込めて稲を育成するという生きかたを永く続けてきているということで、日本人の考え方即ち農工的な考え方と、遊牧民族的なユダヤ人の考え方に違いがあるのです。

非常に日本人を幸福な民族であると、他民族に比べて看採っているようです。

更に日本人は、同一行動をすることが非常に上手なんだと云っており、同一行動を採ることの良否のことでなく、驚くべき成長をもたらしたものが、それなのだとのことです。

例えば、隣でカラーテレビを入れたから自宅でも入れるとか、隣にピアノがあるから自宅でも買うということ、即ちそういう精神が明治時代における驚るべき発展を促しているのだと言います。これが前記テレビ、ピアノと同じ論理に基くものとみえています。だから日本人は全員一致して、同一行動がとれるというように、何千年来訓練されてきている民族であること。だから明治というような大変革期大躍進の時代にあっても、日本人は一人の英雄もいらなかったので一人のナポレオンもレーニンもいらなし毛沢東も必要としなかったとのこと。これは日本人でなければ出来ないことで、天の時、地の利、人の和をもって日本人は実に見事にやってのけた民族だということをお賞めているのか、けなしているのかかわからないが、そのような書き方をしております。

日本人は政治的にも大天才なのだと言い、朝廷と幕府が両方とも共存していたなどということは、他民族では絶対考えられないこと

で、実にうまくやってのけた民族だといえます。それと、今の時世にあてはめて、沖縄の返還を解いております。沖縄を返還してもらうとき、米中ソを巧みに操り、何と見事な政治的勝利を勝ち取ったものだろうか。一滴の血も流さずに失われた土地を奪い返したという民族は未だないのだといっております。そして、あの政治的天才かなと結んでおります。

前にも言ったように、賞めているのか、けなしているのかはわかりませんが、非常に面白い論法なので申し上げておきます。

最後に一寸警告みたいなものも出しております。お互い交ってあれば相互理解が出来ること、単純に考えている日本人が余りにも多いという。日本人は自由とか、安全を唯で手に入れたような民族だから、そういう風に考え易いんだと云っております。それでジャンボの時代がくれば世界は、もっともっと狭くなり、お互い肩をふれ合い、話し合う機会は益々多くなり日常のこととなるかもしれない。だがそれが相互理解に通じるなどは、絶対に安直に考えてはならない。若しそうならばユダヤ人はもう2千年の間西洋人と肩をふれあってきているではないかというようなことです。

だから、一つの日本人に対する警告とも云えるし、またある一面からみれば日本人は幸福な民族なのだというようなみ方もあるでしょう。ただ本当に日本人は幸福な民族なのだろうかということではっているのです。

これは大宅壮一賞をもらった本で、必ずしも、この本の見方が正しいかどうかはわかりません。この間来日した未来学者のハーマー・カーンなども日本人を賞めているが、日本人というものを民族的に、他民族との比較で論評していた本というものは、今まではごく稀な数しかなかったという気がし、これが果して本当に日本人をみているのかどうかということではないが、興味をそそる本が出てきたということだけご紹介申し上げます。

早坂発言に対する意見発表 張紹淵君

私は不勉強のため、例会にくることにより世間のことを習うことを期待しております。

会長さんから話のあった本の紹介のなかで沖縄に関することがあり、日本人を賞める言葉がありました。何故日本人がすぐれているかの考え方については、著者のいうことがもっともわかる気がします。考えてみると、相手を理解して呉れる人もまたえらいと思えます。

さて、早坂さんから発言されたことについてですが、政治的なことについては私はロータリー会員として斯様に考えております。即ち国際ロータリーの中に、国際ロータリーの会

員として取扱うのは、例えば鶴岡であれば鶴岡クラブ全体だけであって、その組織の中の会員は細胞の一つ一つであることを考え合わせると、クラブと個人の見地から一会員ということから考えてみなければならないと思います。例えば、うちのクラブの出席が悪いのは、個人個人があまり責任感をもっていないからであらうかとも思われます。

昔私が受けた小学校時代からの教育では、個人、それから公のことについて、公のことは個人のことよりも大事なことだと教えられてきました。ところが、今の教育は、その反対のように考えられます。そういうものがからクラブの出席も、皆さんは大体私と同年輩の人が多いようで、子供等の行動から感化されて、今様の教育で育成されたような形となり、段々ルーズになってきたのではないかと思われます。今の当クラブの出席率をみると、平均点よりも下です。以上ではありませんが、せめて平均点より以上のことを、月に一日とは云わず、一年に一回でもあったらどうかと思います。あるいは不愉快な話と思われるかもしれないが、そのようなことを考えましたので申し上げます。

それから、政治的のことについては、個人同志の応援なら私は何ら差支ないことと思います。この席でいろんなことをしゃべったって何も悪いことではないと思います。ただ、クラブとして纏め上げ、こういう意見だからこうしようというような決議をしてはいけないことは当然と言えます。若し、以上の考えがまちがっていたなら御指摘ねがいます。

カチカチボールの流行について 安藤定助君

このごろ4日間東京に参り、一生懸命今後の景気についての動向をさぐり、私の方の仕事がうまく行くかどうかを調べてきました。

その中で非常に奇異なものをみつけてきたのでご紹介いたします。

大半の方がアメリカンクランカー（カチカチボール）を未だご存じないようです。アメリカンクランカーというのがアメリカで、クラブ、日本のヨーヨー、ダッコちゃん、ああいうブーム以上にカンジャク玉が爆発したような、そういうブームをよんだ、大人、老人、子供の共通のオモチャです。玉が2つ紐で吊してあり、環に吊した玉を上手に操ると、カチカチカチとぶつかるものです。

2~3日中に再びテレビに出ましようが、これを日本ではカチカチボールということで、4月の始め頃から東京に入って、（私が東京に行ったのは7日でした）7日の時点で、銀座に1店、渋谷に1店でかちかちやっております。それが3日間すぎた10日には、銀座4丁目から数寄屋橋までの片側の通りに7人

渋谷では4~5人露店で売っております。

電車の中、上野から発つ汽車の中では殆んど土産の中にカチカチボールをむき出しでぶら下げて、大人も子供もここにこしておりました。これが僅か3~4日にこのような普及をみました。それを教字的にみると、3月に出荷された数が40万個、4月は200万個の出荷予想、5月6月は400万~600万個出るだろうということで、意気の強い商社が、やっきになってこれをねらっております。

有力デパートが、2,000万円の現金を積んで単独契約をしたという事例もありました。その位デパートから露店商まで、ブームを賭けてカチカチボールの普及をやろうということにやっきになっておりますし、それから大人も子供もカチカチとすごい魅力を感じている状態です。

これを新聞その他でチェックしてみると、何のためにブームを呼んだかという一つは集中力の訓練と言いい、それに人間回復のPRだと言っています。それから不況にあえぐアメリカ人の慾求不満のはげぐちをこれらに求めたのだと言っております。更に対話の出来るオモチャとして大人が喜ぶとも言われ、それから管理社会のそこはかなき反発だと言うようなことが記事としてのっております。

一番ひどいのは、週間誌に、大蔵大臣がやっているところが一面ぬきで出ております。その脇のところに立石電気社長の社長がやっているところが出ています。大蔵大臣は、これに対して、これは面白い。今まで眠っておった神経が呼び覚まされるのでそれで皆が喜ぶんだと言っております。また立石電気社長の社長は、これは非常にすぐれた集中力の訓練になるのだと言っております。

そういったことで、今ものすごいけに入っております。これは恐らく大阪では7日現在で、東京の4月のはじまりの状態であったが、4月15日には東京の今日のような状態がくるであろうと思います。東京は6~7月で大体一般に行きわたり、大阪は6、7、8月に行きわたり、9月頃から東北、関西、北海道、九州と伸びて行くだろうということで、或いは北海道と東北が一緒になるかもしれないとのことでした。この不況ムードの中に爆発的なカチカチボールの景気らしきものが出ているというところを興味本意に報告申し上げます

幹事報告

会報到着 八戸RC、会津坂下RC、藤沢RC、鹿児島RC

例会変更案内 天童RC 4/17(土)
AM6.0~清掃 AM7.30~例会
舞鶴公園清掃のため

チャーターナイト案内 戸畑東RC 5/29
戸畑文化ホール安川第五郎氏特別講演